

# 健苗育成で品質・収量確保にスタートダッシュ！

平成 30 年産米の 1 等級比率はコシヒカリで 91.8%、こしいぶきで 83.4%（平成 30 年 12 月 25 日現在、JA えちご上越）と、品質は並～やや不良となりました。また、収量はやや少（作況指数 97）となりました。

高品質・多収の第一歩は健苗育成による初期生育の確保です。特に生育期間の短い早生品種では、初期生育確保に心がけましょう！

## 【平成 31 年水稻最重点技術対策】

### 目標「気象変動に対応できる適正生育量の確保による品質・収量の安定向上」

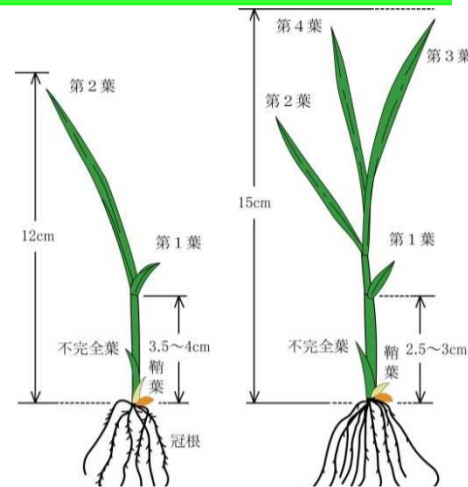
- 初期生育の確保・・・地域、品種、作付ほ場に合わせた適正な基肥量、移植時期、栽植密度で健苗を移植する。
- 適期中干しによる適正生育量の確保・・・移植後 25 日をめやすに生育を確認して中干しを開始。確実に溝切りを行う。
- 生育診断に基づく穂肥施用・・・必ず幼穂長や葉色等の生育診断を行い、穂肥を適期に適量施用する。

## 1 育苗作業計画 ～規格苗で移植する作業計画を立てましょう！～

- 高温登熟を回避するためコシヒカリの移植は 5 月 10 日以降としますが、つきあかり等の早生品種は生育量を確保するため、できるだけ早植えとしましょう。
- 葉齢は、稚苗 2.0 葉、中苗 3.5 葉がめやすです（図 1）。
- 育苗期間のめやすは、稚苗（加温出芽ハウス育苗）で 18 日程度、中苗は 30 日程度です。は種が早くなりすぎないように注意しましょう。
- は種時期が早く、育苗日数が長くなると老化苗となり、本田での初期生育不良、生育の後ずれ、茎数不足による収量低下につながります。

【表 1】 稚苗の育苗スケジュールの例（5 月 15 日移植の場合）

育苗方式	浸種	催芽	は種	出芽	緑化	硬化	移植
加温出芽ハウス	4/15～	4/25～	4/27	4/27～	4/29～	5/2～	5/15
無加温出芽ハウス	4/13～	4/23～	4/25	4/25～	4/29～	5/2～	
加温出芽露地プール	4/13～	4/23～	4/25	4/25～	4/27～	4/30～	



【図 1】 規格苗（左：稚苗、右：中苗）

## 2 種子予措・は種作業

### (1) 種子消毒

- 近年、温湯消毒の普及に伴い、褐条病（葉鞘がすじ状に変色し枯れる）、ばか苗病（苗が異常に徒長）などの発生が見られます。
- 温湯消毒の単独処理では、防除効果が十分に得られない場合があるため、微生物農薬（タフブロック）との体系防除を実施しましょう。
- 細菌性病害（褐条病や靱枯細菌病、苗立枯性細菌病 等）に対しては、種子消毒だけでは十分な効果が得られないことが多いため、カスミン粒剤・液剤との体系防除を実施しましょう。

### (2) 浸種

- 平成 30 年産の種子の休眠は、コシヒカリ BL は「前年産種子より深い」、こしいぶきは「前年並み」と推定されています。
- 浸種には必ず清水を用い、水量は籾容量の 2 倍程度（種子 1 kg に対して約 3.5 リットル）とします。
- 通常は、水温 10℃～15℃で積算水温 100℃をめやすとしますが、平成 30 年産は休眠が深いと推定されるコシヒカリ BL や、休眠が深いことがあるつきあかりについては、水温 12℃で積算水温 120℃をめやすとし、発芽揃いを良くしましょう。
- 特に、浸種初日の水温が 10℃より低い場合は発芽不良を起こす場合があるので注意しましょう。

### (3) 催芽

- 温度は 30℃、1～2 日をめやすに行います。催芽温度が 30℃を超えると細菌性病害が発生しやすくなります。
- 鳩胸状態の籾が 80%程度となったら催芽を終了します。

【表 2】 一箱当たりのは種量

主な品種	区分	乾籾	催芽籾
コシヒカリ	稚苗	130～140g	160～175g
	中苗	80～100g	100～125g
つきあかり	稚苗	145～155g	175～190g
	中苗	90～110g	110～135g

### (4) は種

- は種量は表 2 を参考にしてください。厚まきは軟弱徒長苗や育苗障害の発生に、また極端な薄まきはマット形成不良の原因となります。

## 3 緑化・硬化期の管理

### (1) 出芽期

- 稚苗で加温出芽の場合、30℃、2～3 日で出芽長が 0.5～1.0cm になれば出芽は完了です。中苗の場合は 30℃、1～2 日で出芽長が 0.5cm 未満がめやすです。出芽長が長すぎるとその後も徒長しやすく病害にも弱くなるため注意が必要です。

### (2) 緑化期

- 出芽直後の苗は、急激な気温の変化や強い光に弱く、こまめな管理が必要です。緑化には弱い光が適しているため被覆資材で遮光するとともに、日中は 20～25℃になるように管理します。10℃以下になると伸長が止まるので、低温時は二重被覆するなどして保温管理に努めましょう。晴天時はハウス内温度が急激に高まるため、適宜温度計を確認し、早めに換気を行いましょう。
- 第 1 葉の葉鞘の長さが稚苗で 3.5～4.0cm、中苗で 2.5～3.0cm になったら被覆資材をはがし、緑化を終了します。
- プール育苗の場合、緑化が終了し、被覆資材をはがす葉齢 1～1.2 葉期頃になったら湛水を開始します。
- ハウス内が 25℃以上の場合や好天で気温が上がりそうな時は、換気を行いヤケ苗の発生を防止しましょう。

### (3) 硬化期

- 除覆後は、日中はハウスを開放し、苗を徐々に外気にならしていきます。
- 日中は 15～20℃をめやすに管理します。晴天時にはハウス内がすぐに高温になるため早めに換気を行います。
- かん水は、硬化前半は 1 日 1 回程度、後半は乾燥程度を見ながら 1 日 2 回、午後 2 時頃までに行います。移植 1 週間前からは、夜間もハウスを開放しますが、ムレ苗を防ぐため 8℃以下としないよう管理しましょう。